

タクシー編



どこに迎えにいけばいいのか、はっきりとしない。

家なのか出先なのかなど選択肢を例示し、かけている先を確認する。目印になるものを聞く。ナンバーディスプレイで住所を割り出す。

- タクシー会社の地図には、電話ですぐに配車できるようよくご利用される方は印がついているということで、頻回に利用する場合には配車の問題は軽減されると思われます。
- ✖ 強い口調で聞き出そうとする。

説明が的を得ず、行先がわからない。

優しく、穏やかな口調で待つ。

- ✖ イライラした様子を見せる。強い口調で聞き出そうとする。

同じ話をされても否定せず繰り返し伝える。

目的地を何度も伝える、確認するなど落ち着かない。

電話でタクシーを頼む

動作で指示す。
可能であれば、降車して締めてさしあげる。

✖ 口頭説明

シートベルトの締め方がわからない。

ここがポイント!

タクシーは公共交通機関の利用が難しくなった認知症の方がよく利用される乗り物です。

行き先をうまく伝えられない方

ゆっくり待って聞くことで、行き先を伝えられることがあります。

待っている間に料金が高額になる

実際のトラブル タクシーを上手く呼ぶことができないので、認知症の方はタクシーを待たせることが多くあります。また、タクシーは自宅から、行きたい場所に連れて行ってくれますので、近距離でも利用して、タクシー代が家計を圧迫し、破綻をきたすというケースも少なくないようです。近所のスーパーに買い物に出かけ、銀行に寄って帰宅するという場合でも、買い物中や銀行での用件中にタクシーを待たせたままにしておくと、高額になってしまいます。

家族や支援者は料金の関係でタクシーの利用を控えさせたいが、本人は一番快適なので利用するということです。

実際の支援例 よく行くスーパーや銀行に、用件が終わった後にタクシーを呼んでもらうよう依頼をしました。スーパー・銀行・タクシー会社の無理のない連携で、本人の経済的負担を軽減することができました。



乗車する



「忘れ物に気を付けてください」と言っているそばから荷物を忘れていく。

可能であれば、運転手の方が降りて対応。

少額で高額紙幣を出す。

特に困っていない様子であれば受け取る。
車内に釣り銭が少ない場合は、その旨を伝えて協力を依頼するなど、臨機応変な対応が求められる。

降車する



目的地に向かう

小銭が出せない。

金額の表示を指し示す。
支払い額の見本を見せて、同じものを出してもらう。
トレイに小銭を入れてもらい両者で確認しながら受け取る。

声を掛け、迷っているのであれば乗車場所まで戻る。
状況を見て、交番に送り届ける。

車を降りた後、その場にずっと立っている。

